

資産運用レポート：逆張り投資

1. はじめに

少し長くなりますが、私の投資バイブルである『ファンド・マネジャー』より引用します。

ヨーロッパで第二次世界大戦が勃発して間もない 1939 年のある日、ジョン・テンブルトンという若者がフェナー・アンド・ビーン社に立ち寄った。

そして証券会社ならまず歓迎しそうにもない、実に変わった、面倒な買い注文を担当のセールスマンに出した。

「ニューヨークとアメリカン取引所に上場している株式で 1 株 1 ドル以下のものを残らず、1 銘柄について 100 ドル分ずつ買ってほしい」

(中略)

受け渡しがすべて終わってみると、テンブルトンは 1 銘柄につき約 100 ドルで 104 銘柄もの大量のボロ株を買っていた。そして 34 銘柄は倒産企業であった。

彼はこれらの株式を平均 4 年間保有した後、すべて売却した。その結果は笑いごとではなかった。売却代金は全部で、なんと 4 万ドルを超えていた。つまり彼は買付代金の 4 倍の資金を手中に収めたのである。

ジョン・テンブルトン卿をはじめとして、ジョン・ネフ氏やウォーレン・バフェット氏など、名立たるバリュー投資家は、ほぼ全員が逆張り派です。

今回の資産運用レポートでは、逆張り投資について、ケーススタディを交えて取り上げます。

2. 個人投資家には難易度の高い逆張り

逆張りとは、株価が下落している局面で安値を拾うやり方です。最終的に自分の判断が正しければ、大きなリターンを手に入れることができます。

しかし、ここでの「最終的に自分の判断が正しければ」がミソで、もし自分の判断が間違っておれば、深手を負います。